

髄膜癌腫症の予後を規定する因子について

1. 研究の対象

2014 年 4 月から 2021 年 9 月までに当院で髄液細胞診を行った方

2. 研究目的・方法

髄膜癌腫症は癌の中樞神経系の合併症の一つで、臨床症状や画像所見、髄液検査などを総合的に判断して診断されます。放射線治療や化学療法が行われますが、十分な治療効果を得ることが難しい病態とされてきました。しかし、近年の薬物療法などの開発もあってか、髄膜癌腫症の診断後も比較的長期生存する予後良好な症例もみられるようになってきました。そこで、髄膜癌腫症と診断された、及び疑われた患者さんにおける予後因子を明らかにすることで、症例に応じた最善の治療計画を立案することが可能になると期待されます。

2014 年 4 月から 2021 年 9 月までに当院でがんの診断や治療に関連して、髄液細胞診を行った方を対象とし、電子カルテから、特徴、病歴、臨床所見、髄液細胞診検査、生化学検査、画像所見、原発癌の病理や遺伝子型、治療経過、生存期間について情報を収集します。それらを用いて予後に相関する因子を解析します。

研究期間：倫理審査委員会承認後～2024 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、病理、生化学検査、治療歴、MRI 画像、CT 画像 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

研究責任者

大阪国際がんセンター 脳神経外科 有田 英之

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上